校長室だより～燦燦～ №３２３

# 辞令

2021.3.16

今まで何度も「辞令」というものをいただいている。辞令交付に合わせて、あるいは辞令交付の前に、「事前指導会」なるものがあることがある。

私の場合であるが、新任教頭として赴任する際は県北教育事務所で、県教育センター指導主事として着任する前は南会津教育事務所で、新任校長として赴任する際は県北教育事務所で、再び県教育センターに来る前は会津教育事務所で、それぞれ事前の指導があった。共通しているのは、所長さんをはじめとして指導してくださる方々の話が、非常にためになるということであった。

「新任校長として着任するにあたって」では、次のような話があった。

校長の落とし穴として８つある。「校長を教職の仕上がりと考える」「自分の教頭時代の苦労を押しつける」「自分の過去の教諭時代の古い校長像を求める」「これは教頭がやる仕事で校長のやるべき仕事ではないと決めてかかる」「校長の出番はいつも最後と思っている」「すべからく校長の仕事は、包括的でよいと思っている」「校長の指示・考えは当然に受け入れられるべきものと思っている」「職員は自分に全幅の信頼を寄せている。多少のことは許されると思っている」

学校経営の基本として３つある。「法規法令を守る」「学校内のマネジメントを充実させる」「学校外との関係でのマネジメントを充実させる」

学校経営のポイントとして４つある。「児童生徒、保護者、地域、教職員の実態をつかむこと」「学校課題の解決策を具体的に講ずること」「教職員を育てる方策を持つこと」「事故防止を徹底すること」

「よし」「だめ」「ちょっと待て」が言えることが大切である。健康がすべてではないが、健康でなければすべては始まらない。

こんなお話もあった。

「子どもあっての学校、先生方あっての学校、学校あっての校長」学校、子どもたち、先生方を管理する。学校を知る。毎日、学校の中を歩く。いつも同じコースで歩くと変化に気づく。自分の目で確かめる。自分の学校の歴史を知る。学校沿革誌を見る。地域を歩く。先生方と話す。子どもたちから教えてもらう。

また、次のお話があった。

辞令交付の際には、辞令をしまうカバンを持っていく。辞令を見て、氏名と赴任先を確認する。所属長に報告する。新任地の教育長に報告する。その際には、所属と氏名をはっきりと言う。引き継ぎには印鑑を持参する。

厳しさとあたたかさが必要である。その学校の時間の流れに校長として入っていく。表情を読まれる。笑顔と真剣さが必要である。学校の最大の情報発信源は子どもたちである。

昔、どなたからかいただいた資料にも、こんなことが書いてあった。

校長は所属校の長であり、学校の一切の最終責任は校長が負うことになる。学校を離れる時間は、つとめて少なくすること。校長は、教頭に先んじて為さねばならぬことと、先んじないほうがよい場合とがある。人事や事故処理に関することなどは、先んじて為すことである。

これからの校長は、「なあなあ、まあまあ」の一昔前の大物校長タイプでは通用しない。校長のアクション率先垂範が学校を支える。校長自身の日常の行為、行動そのものが手本になっている。服装、言葉遣い、時間の観念、金銭感覚などである。

（次号に続く）